

まちひと

100年の肖像

◎京都新聞社編◎



青空に筋をひく飛行機雲を見ると、空襲を思い出します。戦死者、戦災者の犠牲の上に今があるんです。歴史の事実を風化させてはいけない。五十年過ぎたからといって忘れてよいのではない。空襲を受けた地元の人間としても、事実を後世へ伝えたいと思います。

【メモ】京都府内は馬町など空襲

京滋が空襲を受けるのは、一九四五（昭和二十）年に入ってからだ。「滋賀県史」によると県内の大きな空襲被害は、六月二十六日の彦根市のほかに、七月二十四日には大津市の東洋レーヨン滋賀工場が爆撃されて死者十五人、負傷者百四人。同月二十五日、彦根市の近江航空工場や鐘紡長曾根工場などで死者六人、重軽傷者三十五人。守山市や長浜市でも死者が出た。

京都府では一月十六日、京都市東山区馬町が空襲に遭い、三十四人が死亡するなどの被害が出た。厚生省や総理府によると、太平洋戦争（昭和十二年の日中戦争から）の戦没者は約三百十万人。うち、軍人、軍属の死者は約二百三十万人。国内で空襲などで死亡した一般市民は約五十万人に上り、約三十万人が外地の戦火で亡くなった。

まちびと

現在の肖像

ISBN4-7638-0472-3 C0036 ¥1200E

定価:本体1,200円+税

● 京都新聞社編

吉 書 館



216

● 京都新聞社